復興・創生期間後の ふくしま復興・創生に向けて



福島県



福島県 復興シンボルキャラクター キビタン



Future From Fukushima.



復興・創生期間後のふくしま復興・創生に向けて

1 避難地域の復興・再生

12市町村将来像の実現に向けて取組を進めていく必要。帰還促進や移住・交流人口などの拡大への支援。

特定復興再生拠点区域外の避難指示解除のための具体的方針を示し、将来的に帰還困難区域全ての避難指示の解除。

2 廃炉・汚染水対策

中長期ロードマップに基づき、廃炉・汚染水対策の安全・確実な実施について、国は前面に立って取り組む必要。

3 福島イノベーション・コースト構想の推進

福島イノベーション・コースト構想を基軸とした産業発展 の青写真に基づき、中長期的な取組を進めていく必要。

福島ロボットテストフィールド、東日本大震災・原子力災害

伝承館の安定的な運営に必要な予算の十分かつ継続的な確保。 国内外から人材が結集する国際教育研究拠点の国主導による構築。

4 地域産業の再生

産業再生に向け、県内の商工団体や多くの自治体から要望がある津波・原子力災害被災地域雇用創出企業立地補助金等の制度の継続。

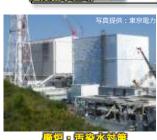
5 森林・林業の再生

県土の7割を占める森林は、生活圏等の一部を除き除染が 行われておらず、放射性物質が滞留している状況。 放射性物質を含んだ土砂の下流域への流出・拡散の懸念。 引き続き、現在の実施地域全体を対象とした対策が必要。









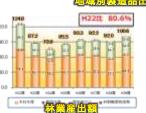




福島県 H22比 100.1%









【財源の確保】

- ▶ 復興・創生期間後の復興を支える仕組みとして、体制・制度とともに、財源の確保が極めて 重要。
- ▶ 集中復興期間、復興・創生期間においては、復興期間10年間における財源フレームが示され、復旧・復興に専念。
- ➤ 福島県民が切れ目なく、安心して復興に専念することができるよう、令和3年度以降の財源 フレームが必要。

【新たな課題等への対応】

- ▶ 復興のステージが進むにつれて生じる新たな課題や多様なニーズにきめ細かく対応。
- ▶ 新たに顕在化する課題や将来的な必要性が見込まれる事業等については、前例がなく、対応 にはその時々の柔軟なかじ取りが不可欠。
- ▶ 復興施策が必要とされる地域で的確に漏れなく実施できるよう、しっかりと対応する必要。
- 震災から8年9か月が経過する今もなお、県内全域で原子力災害が継続中。
 - 復興・創生を進めてきた中、台風第19号とその後の大雨災害により、甚大な被害が広範囲 で発生し、住民生活や経済活動に深刻な打撃。
- 「福島の復興には長い時間が掛かる」 「いまだ有事の状態が続き、今後とも中長期的な対応が必要」という認識の共有。
- 復興・創生期間後も、正確で分かりやすい情報を発信することにより、福島に対する正しい 理解を醸成し、関係者が一体となって、時間の経過とともに進む風化の防止に取り組む必要。
- 現場主義に基づき、現場の実態と実情の変化を丁寧に把握しながら、一つ一つ確実に復興を 前進させることが重要。